

2. 第7回WHECに出席して

会長 古浜 庄 一

第7回世界水素エネルギー学会(WHEC)「Hydrogen Today」はモスクワで1988年9月25-29日に約500名が参加して盛況裏に挙行された。日本からは8名、私もその1人として参加したので以下に本学会の様子を極く簡単に紹介する。

1 参加者への便宜

参加者名簿(同伴者などを除く)では全数が32ヶ国314名、その約半数がソ連、西独33、米国21、ブルガリヤやよび中国各11、イタリア10、トルコ9、日本およびフランス各8、インド7の順で、宿泊は8,000人が収容できると言われるロシヤホテル(写真1)で、国際的ホテルとして設備は整っていたが、なれない私共には各種手続きが複雑でかつ習慣が違ふことでいらいらさせられることも多かった。たとえばチェックインから室に落付くまでに2時間近くもかかった。またこのホテルはクレムリンまで歩いて15分ぐらいであるが、学会場であったインタナショナルホテルまでは専用のバスで往復した。その他のタクシー、バス、地下鉄などの利用が不自由なために気楽にモスクワ見物はできなかつた。しかし学会が用意したクレムリン内のホールでのバレ-観賞はすばらしかった。



宿舎のロシヤホテル

2 発表の方法

26日：開会のあいさつに続いて各国における水素エネルギー研究の動向をそれぞれの国を代表して講演，日本は横浜国大の田川教授。

27日以降はそれぞれの専門分野で，一般講演 (plenary lecture) のみが1テーマ30分で行われ，私は「Hydrogen for Land Vehicles」を講演した。いわゆる論文はすべてPoster Presentationとして隣室の掲示板に張りつけた論文その他で発表者が質問に答えて説明する方式がとられた。

また講演の座長はソ連の人で，講演は英語またはロシア語で，かつイヤホンでどちらでも聞ける方式。実際上は座長はじめソ連人の発言，質問はすべてロシア語で通訳を通るので質疑応答には多少の不便があった。(写真2, 3)



写真2 講演会場



写真3 ポスターセッション風景

3 内容の特徴

水素エネルギー研究への一般的関心が低下していることは世界的な傾向で主催学会（IAHE）の会員数も1980年以来約2600人の横ばいまたは極微増である。しかし今回は主として地球大気の汚染特にCO₂増加による温室効果被害として最近の気候異変をとらえ、その対応の担い手として水素エネルギーの将来性を評価することで同好の士を勇気づけた。

この要請に答えるための水素製造法については化学的または熱化学的には特に新しいものは見当らなかったが、太陽光・太陽電池-水の電気分解、特に高温分解法の研究成果が上っていること、さらに燃料電池による発電の研究も実用化に近づいていることが示された。

また特別発表されたソ連の液体水素ジェット機（写真-4）の映画が上映され満員の聴衆から拍手かっさいを受け、水素エネルギー時代が迫りつつあることを印象づけた。

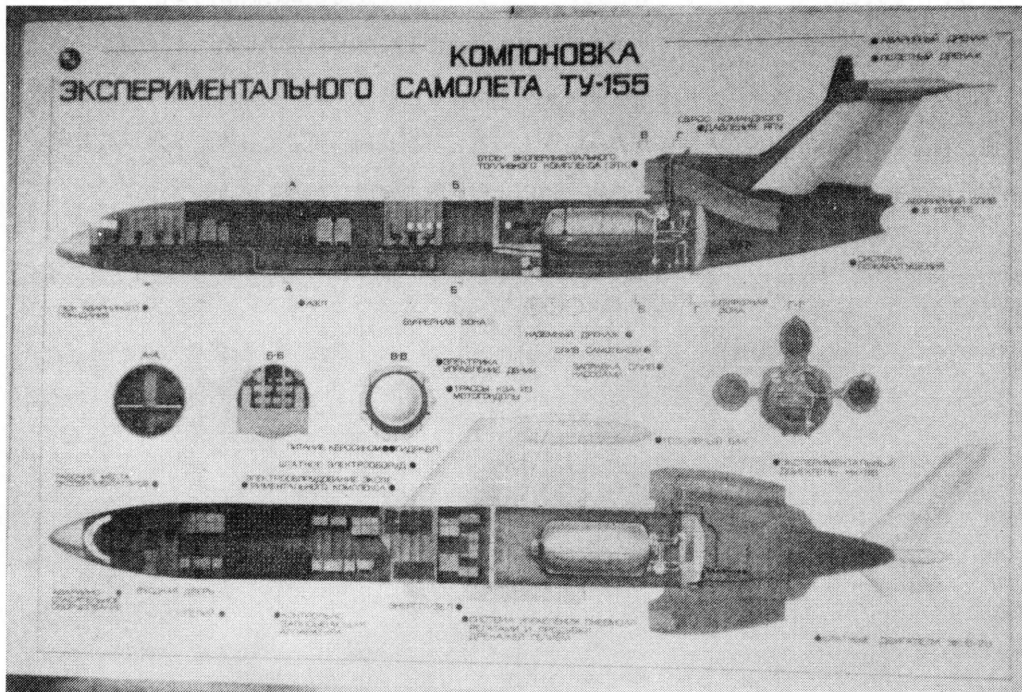


写真4 ソ連液体水素飛行機の説明図

4 IAHE（国際水素学会）の委員会

期間中に Board of Directors Meeting（太田時男先生の代理）、Joint Advisory Board/Standing Committee Chairpersons Meeting に出席、そこで討論された主なることは、

- (1) 会費値上、メンバーで45から\$55など

(2) 委員会の新しい委員長の承認, 常設委員会の委員長14名のうち surface transportation を私が, また Advisory board membersとして日本からは太田先生と私が指名された。

(3) 今後のWHEC会催地

1990年ハワイは決定, 主役に当られるハワイ大学教授のDr. Takahashi 氏のグループはすでに具体的計画も進行していて, ハワイ会議のPRに精力的に行動しておられた。

1992年のパリ開催も決定

1994年はブラジル, 米国フロリダおよび西独ステュットガルトなどの立候補があり, 議論されたがどこにするか決定するに至らず, 会長がさらに検討することとした。

5 そ の 他

29日閉会后私はレーニングラードを経てヨーロッパの研究機関を2週間訪問し, その間西独のベンツ社の水素自動車, 仏ドワイのエアリキッド社の水素液化工場などを見学した。

今回の全体としての感想は, 日本の水素エネルギー関連の研究は世界の動向からして遅れ気味であり目前の利益の追求にも増して人間のための地球を守ると言う長期的展望で日本の英才が水素エネルギー研究に打込める態勢の確立が必要で, そのために本会も微力を尽したいと思う。